

東奥日報

2022年(令和4年)7月30日(土曜日) (16)



本田 洋之 八工大工学科生命環境科学コース講師

今から20年近く前のことである。私は大学4年生になり、研究室に配属された。

乳酸菌を管理していたN先生が「コンタミネーション(乳酸菌の試料に他の菌が混入して正確な実験ができなくなることを防ぐために納豆は絶対に食べない」という話をしていた。納豆菌は芽胞という固い殻を作って自分を守るため生き残りやすく、手や服などに付着した納豆菌が研究室に持ち込まれると、乳酸菌の試料を汚染する恐れがあるためだ。

私は、納豆が好きで子どもの頃からよく食べていたのだが、これから乳酸菌の研究をするのだから「郷に入れば郷に従え」で、納豆を我慢することにした。

〈4〉乳酸菌の研究

好きな納豆 食べず我慢

周りの研究者に聞いてみると、納豆に関しては「大丈夫だよ、俺は①食べない人②気にせず食べる人③なんとか工夫して食べる人」がいるよ。③は当時近くの研究室にいたA助手である。彼に納豆が好きだが我慢しようだ。

③は当時近くの研究室にいたA助手である。彼に納豆が好きだが我慢しようだ。



秋田県横手市の金沢公園内にある「納豆発祥の地」の碑

その手があつたか！こ

断つ覚悟を決めた。

大学院を修了し、就職した会社の研究所でも乳酸菌を扱っていた。周りで納豆を食べている人がいると、内心おもしろいと思うながらも避けるようになった。

納豆が好きなのに避けるので、変な人だと思われたようだ。逆に「本田は納豆嫌い」と勘違いされたこともある。微生物を扱っていない人には、説明が少し面倒だった。

ともかく、私は納豆と無縁の生活を続けていた。

会社に入って8年目の春、私は本社に異動になった。東京で暮らし始めた私は、ある日スーパー

に買い物に行き、そこで

納豆売り場の前を通りかかった。ああ、そうか。私は気が付いた。本社ではもう実験なんてしないんだから、納豆を我慢する必要などないのだと。少しドキドキしながら、納豆を買って家に帰った。

十数年ぶりに食べた納豆は、とてもおいしかった。だが、それと同時に、これ自分はまだ研究者ではなくてしまったのだという思いが込み上げてきて、納豆を食べながら不意に涙が出てきた。ずっと我慢してきたのに、納豆を食べたことで自分の人生を諦めてしまったような気がした。

自分から納豆を食べて泣く大人はなかなかいないだろう。

その後、大学の先生になった私は何の因果か、納豆の変化形のような「ごど」という食品を研究することになった。その話はまた次回。

※月1回掲載します。

※ 「この画像は当該ページに限って東奥日報社が利用を許諾したものです」